



一般社団法人

လူဝန်- မြန်မာချစ်ကြည်ရေးအသင်း

日本ミャンマー友好協会報

一般社団法人 日本ミャンマー友好協会 E-mail ●tzkosm@abelia.ocn.ne.jp http://jmfa-main.com/

●本 部 〒160-0012 東京都新宿区南元町13-3-504 TEL.03-6380-0409

●広報部 〒243-0017 神奈川県厚木市栄町1-2-2-322 FAX.046-224-3011

第171号

令和5年2月発行

発行人：藤村建夫

編集人：中田大生



ヤンゴン北東部、下校中の児童の様子（撮影：井口久生）

収録内容

ミャンマー危機の早期解決を切に期待する…	2
哀悼 米村前会長ご逝去……………	3
外務大臣表彰の受賞を受けて ……	3
楽しかった鴨川シーワールドと マザー牧場へのバスツアー…………	4
大好評!多文化まるごと講座・ミャンマー編…	5
経済セミナーの開催……………	6～7
時代の流れと灯明祭り……………	8～9

＜ミャンマー人材が活躍する企業レポート＞ 「前出産業株式会社」……………	10～11
＜アクションミャンマー・レポート＞ チン族民族舞踊「バンブーダンス」で、 支援を続けます……………	12
＜ニューフェース紹介＞ 株式会社ウイング ……	13
会費納入のお願い……………	13
お釈迦さまの物語（第七講）……………	14～15
協賛企業……………	16
編集後記「ヤダナー」……………	16



ダザウンモン満月の祭りの一コマ

本部HP▶





巻頭言



ミャンマー危機の 早期解決を切に期待する

一般社団法人 日本ミャンマー友好協会
会長代行 藤村 建夫

ウクライナ戦争によって

忘れ去られるミャンマー

2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、国連常任理事国が始めた戦争の故に、国連安全保障理事会が制御できない事態となっている。長期戦となった戦争の悲劇が世界中のTV、新聞に毎日溢れている。欧米の関心がウクライナに向く中、2021年2月に始まったミャンマーの悲劇は、今や極めて稀にしかマスコミの(TV、新聞)の報道に見られない。まるで世界から忘れ去られているように見える。

崩壊しつつある

ミャンマーの統治機構

最近の報道によれば、「国軍とその民兵組織であるピュー・ソー・テー」対「国民統一政府(NUG)の戦闘部隊である「人民防衛隊」(PDF)・少数民族武装グループ」との戦闘は、ますますエスカレートし、あたかも内戦状態にあるように見える。その結果、国内避難民は140万人に上っている。

私が一番心配していることはミャンマー国民の教育事情の悪化である。国軍政府は、クーデター後の2021年11月に大学から小学校までを再開したものの、教官、教師の復職は30%程度で、生徒の登校復帰も30%程度だそう。2020年のコロナ発生による学校閉鎖から続くクーデター以後の混乱状態で学校が閉鎖されて以

来、すでに2年半が過ぎている。今後、2023年に向けて、更に学校教育の正常化が進まないと、ミャンマーの国家発展の礎が壊れかねない危機である。公立学校に行かない生徒が僧院の学校に多く通っているのが、せめてもの救いである。この「国民教育の喪失」という大きな国家的損失は、いったい誰が責任を負うことになるのだろうか？

第二の心配は、政府も認める経済の低迷である。政治の混乱のために外資の直接投資も低迷。政府はクーデター以降に38億ドルの投資があったと発表しているが、NUGはこれは虚言であると批判している。外国投資の減少に加えてODAの停止、観光客の減少等で国の外貨は減少している。インフレは14%を超え、対ドル・チャット的大幅下落に加えて、ガソリン価格が上昇、電力不足で停電も頻発している。市民生活がますます困難となっていくことが危惧される。

問題の解決に向けての動きは

期待できるのか

内戦状態を調整する主体としてASEANが期待されている。議長国の努力にもかかわらず、これまでのところ、ミャンマーと合意した5つの条件は、いずれも履行できず、一つも成就していない。ASEANもこれからは、提示した条件が進展するまでは、ASEANのすべての会議からミャンマーを排除するよう圧力をかけていくよう

に見える。国軍が主張している、2023年8月の総選挙は事態解決への手掛かりとなるであろうか。

ミャンマーの人々との交流を

新たな取り組みで強化する

このような政治・経済の混迷にも拘わらず、私はミャンマーの人々の善意と知恵を信じて、少しでも困難に直面しているミャンマーの市民を支援するため、在日ミャンマーの人々との交流や現地で奮闘するNGO、UNICEFなどの国際機関の支援活動を支持・支援することが大切と考えている。

現状では、日本とミャンマー間の人々の自由な往来は制限されている。このため、当協会は、今年度より、一般市民と企業等からの寄付金をもとに、「日本ミャンマー交流基金」を設置して、日本在住のミャンマーの人々との交流を中心に以下の3つの交流活動を強化することにした。

- 1) 文化交流活動：
- 2) 人材交流活動：
- 3) 経済交流活動：

詳細はホームページをご覧ください。これらの活動は、ミャンマーに協力している多くの民間の関連団体・組織とも積極的に連携し協力する考えである。こうした取り組みが現在の危機解決後の日緬交流強化の足がかりとなることを強く期待している。

哀悼 米村前会長ご逝去

専務理事 都築 治



当協会の前会長米村紀幸氏が、12月9日、大動脈解離により急逝されました。享年82歳でした。突然なことで、知らせを聞いた時は気が動転し、しばらく何もなすことができませんでした。家族葬は13日に行われ、協会を代表して藤村会長代行が出席いたしました。私とは、3日前の6日に電話でお話したばかりで、実感が全然わいて来ません。心から哀悼の意を表すとともに、神と共に在られることを念じます。

米村氏は東大法学部のご出身で、通産省や同省関連の各要職を歴任された後、富士ゼロックスに就職されました。常務取締役として定年退職後、(社)中小企業診断協会会長、石原産業株式会社取締役、京都工芸繊維大学特任教授、ミャンマー経済・投資センター代表、(一社)日本森林再生機構理事長など、数えきれないほどの要職に就かれました。

当協会には2012年に入会され、13年理事就任、15年8月臨時総会で代表代行に就任、17年会長就任。当協会が混迷する中、代表に就任され、安定した協会に立て直していただきました。米村氏は発信力が強く、各方面に亘って協会の地位を高めてくださいました。ここに、生前のご尽力に感謝するばかりです。どうか、天国から協会を見守ってください。



外務大臣表彰の受賞を受けて

当協会副会長 高松 重信



表彰状

高松 重信 殿

貴殿は日本とミャンマーとの相互理解の促進に尽力され、我が国と諸外国との友好親善に寄与し、その功績顕著なものがあります。ここに深甚なる敬意を表するとともに表彰します。

令和四年八月十日

外務大臣 林 芳正

ミャンマーとの交流は1982年、旧日本国有鉄道時代に当時のビルマ国鉄へJICAから鉄道指導に派遣されたのが、切っ掛けとなり、鉄道を中心として長期に渡って支援をしていました。

ミャンマー鉄道に関しては鉄道の改善、経営、近代化につき、計画、実施、教育など物心に渡って、顧問的な指導をさせて頂きました。そのようなことから、今年、外務大臣表彰を受賞させて頂いた次第です。

この度頂いた栄えある賞は、ミャンマー鉄道などへの貢献と言うことですが、これは私一人の功績ではなく、多くの日本の関係各位とミャンマー鉄道の方々による貢献によるものであって、その代表として受賞させて頂いたと思っています。



1982年ミャンマー国鉄ゲストハウス
右から2人目が筆者



2017年ミャンマー国鉄(MR)のOB会参加
前列の右端筆者、元総裁、局長など



2017年MR職員への教育



楽しかった鴨川シーワールドと マザー牧場へのバスツアー

人材交流：日緬青年交流会

秋晴れの10月23日(日)、日本とミャンマーの青年と藤村、計9名が参加して「鴨川シーワールドとマザー牧場への日帰りバスツアー」の日緬青年交流を楽しみました。

バスに乗る時から、日本とミャンマーの青年が交流できるように座席を交互に組み合わせて座りました。

最初に東京湾を横断するアクアラインの真ん中の休憩所「海ほたる」で休憩し、約2時間で「鴨川シーワールド」に到着。3時間の滞在中に水族館で、ベルーガ、イガグリガニ、サカサクラゲ等の珍しい海の魚や川の魚を鑑賞し、ついで「イルカショウ」と「シャチショウ」を見ました。イルカもシャチも実に良く訓練されていて、トレーナーの言うことをよく聞いて、次々にジャンプしたり、輪をくぐったり、飛び上がって上空の風船をくちばしで蹴ったり、素晴らしい芸を披露してくれました。



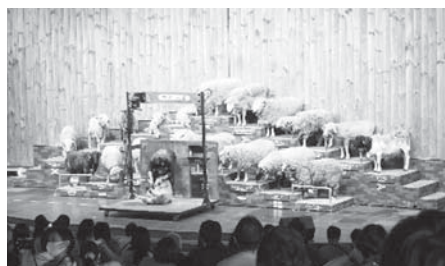
特にシャチはその大きな体を宙に飛ばして空中の風船を蹴ったり、大きなジャンプで水を観衆にかけたりして、大いに観衆をわかせました。



マザー牧場では、山の上の広々とした牧場にいろいろな動物たちが飼われていて、これも集団で訓練された演技を披露してくれました。



とりわけ、興味深かったのが世界中から違った種類の羊たちが自分の名前がついた階段に並びおとなしくしていたことです。その場であつという間に羊の毛を刈る毛刈りの実演も見せてくれました。



毛刈りの時間は、わずか7～8分で羊の毛がバリカンで一気に刈り落とされました。これには、青年達も初めて見る光景で、あつと驚いていました。

青年達は、マザー牧場の広々とした草原がとても気に入ったようで、寝転がったり、お互いにポーズを決めたモデルのような写真を撮りあっていました。



日緬青年交流会は緩やかで和みのある雰囲気の中で時間が過ぎていき、参加したみなさんが自由自在に交流して、とてもリラックスできた交流会だった。そして、マザー牧場の羊のショー、各国の羊が千葉のマザー牧場で見られることはとても面白かった。私が生まれ育ったマンダレーは乾季になっても、気温が10度前後であり、その地域からきた私がウールを生産する羊を見たことが初めてでとてもいい思い出になった。

(ピーピヨミツ：東京大学学生)

ミャンマーの若い人達とたくさんお話しができて、とても充実した交流会でした。日本語学校に通いながら、将来、日本で仕事を探して行きたいと目を輝かせて言っていた人が強く印象に残り、自分の襟を正されました。これからも青年交流会が続いていくことを願っています。

(村上遼太郎：会社員)

今回の日帰りバスツアーは、ミャンマーと日本の青年の両方に好評でした。バスの中では、主催者が予め往復の座席表を作って、日緬の青年男女が違った人とお話しできるようにデザインしたので、いろいろなお話しが出来たようです。是非、来年も続けたいと思います。(藤村記)

<JMFA人材交流活動>

大好評!<多文化まるごと講座・ミャンマー編>

当協会理事・関西支部事務局長
岡 晃市

2022年4月から2023年3月までの人材交流活動の一環として、(公財)近江八幡市国際協会との共催により、以下の「多文化まるごと講座・ミャンマー編」を実施しました。当日は好天にも恵まれ、男女・子供さん達も含め20名が参加しました。参加者は最初に、講師の宮本さんからミャンマー文化の紹介を受けた後、5つのグループに分かれ、メイン料理のチキンカレー「チェッターヒン」とデザート「モンウオンノン」の調理に取り掛かりました。

皆さん初めて体験するミャンマー料理とあって戸惑いもありましたが、講師の宮本さんの明るい人柄に、何時しか会場は笑い声で満ち溢れ、あっという間に美味しそうなミャンマー料理が出来上がりました。

宮本さんご一家も参加され、皆さん珍しい異国料理に笑顔で舌鼓を打っておられました。

また、地元のケーブルTVの取材もあり、この活動が広く周知される事になりました。

当日のアンケートでは、「また、このような機会を是非お願いしたい」「とても美味しかった。家でも作ってみたい」と、多くの方々からご好評をいただきました。

尚、この度、成功裏に終わる事ができましたのは、(公財)近江八幡市国際協会の会長並びに事務局スタッフの皆様の多大なるご努力とご支援によるものであり、当協会よりここに改めて感謝申し上げます。

●タイトル：Nan Shwe Yinさんと「ミャンマー料理」を作ろう。

●開催日時：2022年10月23日(日) 10:00~13:00

●場所：G-netしが男女共同参画センター調理実習室。(近江八幡市鷹飼町)

●講師：宮本ナン・シュエ・インさん。滋賀県野洲市在住。

●内容：講師によるミャンマーの文化紹介を交えて、参加者全員でミャンマー郷土料理をつくる。

●参加費：1,000円

●主催：(公財)近江八幡市国際協会/共催：(一社)日本ミャンマー友好協会



ミャンマーの文化を紹介する
講師の宮本さん。



デザートに使う自家栽培の
野菜を紹介する宮本さん。



講師の話に熱心に聞き入る
参加者の皆さん。



参加者の子供たちにも
丁寧に教える宮本さん。



美味しく出来上がってきた、鶏カレーの
「チェッターヒン」。もう少しで完成です。



デザートのモンウオンノンの材料・タピ
オカとミャンマーオリジナル野菜・パイ
トウイと水を入れて煮詰め、冷蔵庫
で冷やします。



完成した鶏カレー「チェッターヒン」。
香りも良く味も美味しい、これぞミヤ
ンマー料理の代表格。



デザートの「モンウオンノン」。もちもち
していて、ココナツとミルクの味と香り
がほんのりと伝わってくる。カレーと
の相性はピッタリ!



経済セミナーの開催

混迷するミャンマー経済の現状について理解を深めるために、ミャンマー研究者とティラワ経済特区で工場を運営されている実務者のお二人をお招きしてオンラインセミナーを10月27日に開催しました。以下はその要点の報告です。(文責) 経済交流部

悪化するミャンマー 政治経済に希望はあるか?

政策研究大学院大学
教授
工藤 年博

■民主化勢力の抵抗拡大と

国軍の弾圧強化

2020年11月の総選挙において、NLD党が大勝した結果、翌2021年2月1日に国軍がクーデターを起こして政権を奪取したが、これに反発した市民のデモ活動が全土に広がった。民主派はNLD元議員を中心に連邦議会代表委員会:CRPHを設置、組織的に対抗し、4月には挙国一致政府(NUG)を発足、5月には、「国民防衛隊:PDF」を発足させて、防衛戦の開始を宣言した。

NUGは国軍と対立する少数民族武装勢力(カチン独立機構、チン民族戦線、カレン民族同盟、他に一族進歩党等)と協力を進め、PDFと少数民族武装勢力は協力して国軍部隊を攻撃しており、国軍は自らを支援する民兵組織(ピューソーティー)を新たに組織して両グループの戦闘が激化している。この結果、2021年2月1日から2022年7月までの約1年半の間に28,000軒の住居・建物が放火等で焼失・破壊された。

■国軍クーデター「発生」と

「失敗」の背景

2020年総選挙でのNLD圧勝をみて、国軍は今後5年間に特権を奪われることを懸念し、選挙不正を口実にスーチーに妥協を迫った。総選挙に圧勝したスーチーも妥協できず、振り

上げた拳の落としどころをなくした国軍は、準備不足のままクーデターを強行した。面子のぶつかり合いが起きたといえる。

当初、ミアウンフラインは時代をタンシュエ議長軍政期まで戻すつもりはなかった。自分たちが政権を担当することで、国政運営でもたつくNLDよりも経済も少数民族和平も外交もむしろうまくできるとの自負があったと思われる。他方、市民と民主派は、今、クーデターを潰さなければ、再び国軍が権力を確立してしまい、民主化のチャンスはもう訪れないという危機感があつた。

大義なきクーデターに対して、民主派には、インターネットの自由化と普及による情報へのアクセスの改善、教育水準の向上、外資・外国人の流入というプラス要因があり、他方国軍の治安維持組織の弱体化と準備不足のクーデター、低い士気、脱走兵の出現等予想しなかった事態が出現している。加えて、国民の経済力が向上し、民主主義を奪われるという危機感や国軍の暴力と積年の不当支配への恨みに対する反抗が国軍への反抗を長期化させている。

■「クーデター」後の

経済縮小と回復

クーデター以前には、5~6%の経済成長率を記録していたが、2020/

2021年度には-18%と激減した。2021/2022年度は3%と見込まれている(世界銀行)。対外貿易は概ねクーデター前の水準に回復しており、2022年8月時点では、クーデター・コロナ前の水準を回復もしくは超えている。しかし、貿易赤字は大きく、外国投資、ODA、海外からの送金、外国人観光客の訪問は大幅に減少しているので、今後とも外貨不足は続くだろう。為替レートも大幅に下落していることが懸念材料である。

■国軍は権力を維持できるか?

今後の展開は全く予想できないが、長期的には国軍が権力を維持することは困難であろう。しかし、それが数年なのか10年かかるのかは分からない。抵抗勢力(NUG・PDF)としては、一度国軍の統制が成功すれば再び抵抗を盛り上げることが困難なので、今が正念場といえる。

現在は、両者とも引けない状況にあり、簡単に決着がつくとは思われない。国軍がやり直し総選挙を通じてソフトランディングを成功させる可能性は小さいだろう。いずれにせよ、国軍が自己改革を決意し、それを国民に信用させる「行動」をとることが出発点となろう。

国民と民主派が武力による徹底抗戦よりも、選挙を通じた段階的な政治改革の方が実現可能性が高く、犠牲が少なく、結局は近道であると思わなければ、やり直し選挙は成功しない。しかし、国軍幹部にとって「民主化」のコストは極めて高く(自分たちの生命にかかわる)、政治的妥協は難しい。

ティラワ経済特区における 経営環境の現状と生産体制

(株)イゲタ金網
代表取締役社長
森 崇倫

■会社概要

(株)イゲタ金網は、1963年12月に創業。約60年の操業で売上高は2022年3月期で約8億8,600万円。従業員は46名。工場は日本国内に5か所とミャンマーに1か所を所有している。

「暮らしを豊かにし、生活を守る工業製品」としての金網を生産しており、製品用途は、以下のものである。

- コンクリートのひび割れ防止
- コンクリート製品の骨材
- フェンス
- 安全柵
- 食品用（メスティンフライヤー）
- 内装・天井

■なぜ海外進出に

ミャンマーを選んだのか

外国人技能実習生の帰国後に人材を活かすための拠点を作ること、および日本では簡単に取引が開始できない大手企業と海外で繋がりを作って国内での取引を模索したいと意図して海外進出を検討した。

ミャンマーを選んだのは「ミャンマーの企業が生産技術の向上と工場拡大による新製品生産のためのJVパートナーを探している」と勧誘されたことと、ミャンマー市場が魅力的に見えたこと、並びにミャンマーには、コンクリート補強用の金網を作る企業が無いことがわかったからである。

ミャンマーのJVパートナーが「信頼できると判断されたこと、自分一人で責任が取れるくらいこの国を好きだと思えるようになったこと、更にミャンマーの魅力的な国民性と親日国家で

あることで、進出を決めた。

2018年3月にミャンマーを訪問し、JVパートナーと発対面した後、同7月にマーケティングを開始して、ティラワSEZでの用地確保の交渉を開始した。2019年6月にJV企業を設立し、2020年2月に工事を開始した。

■現在までの準備

2020年春以降に発生したコロナ禍により、幾多の問題に直面した：度重なる中断、渡航できない、一時期のリモート管理等。工場が完成間近となり、引き渡しのために、2021年1月21日の救援便で渡緬したところ、2週間ホテルに隔離された。後4日で自由になると思われた2月1日の朝、クーデターが発生した。

民衆がティラワSEZの入り口を封鎖するほど、工場の稼働や建設工事を続けることに対して、世間の逆風があり、完成・引き渡しが遅れざるを得なかった。この間、家族からは帰国命令が来て、港湾業務も停止された。紆余曲折を経て、6月に工場が引き渡され、少しずつ試運転を開始、12月に正式稼働を開始した。

■今後のミャンマーでの

ビジネスの見通し

現状は、日系民間商業施設、日系民間工場案件、ODA・軍が関係する案件の全ては延期または中止の状態にある。

ミャンマーのローカルゼネコンは建築現場で施工するコンクリートの中に金網を入れる経験がないが、これは

安全性の担保がわからないからである。まだまだ時間がかかる。道のりが長すぎて、やっとスタートできる喜びがあるものの、投資は終わっているのもう戻れない心境である。この環境下で誰も新規投資を決断しないだろうと思われるので、この数年でミャンマー市場で根を張り、認知度を高めてシェアを確保し拡大を図りたい。

■現状のビジネス環境

政治的混乱が続く中、幾多の困難が横たわっている。まず、国としての外貨（US\$）が不足している。SEZ内の企業は問題はなかったが、US\$での送金に中央銀行の許可がいるなどの理由で、時間がかかり過ぎて、支払いには使えない。チャットは現状で2400～2700MMKに下がっているため、受け取り手もMMKは欲しくない。

加えて銀行からMMKを自由に引き出すことができない。売掛金としてMMKを貰っても引き出せないで困っている。よってMMK現金でのやり取りのみによっている。

大型の工事案件(日系案件)がすべて止まっているので、ローカルのビジネスのみである。外貨不足のため材料の入手を諦めざるを得ない企業が殆どであるが、幸い、IGETA SUNはMMKで材料を調達出来て、MMKで販売できる現地の顧客を探すことができたので、「細々とビジネスを継続している」状態が続いている。

IGETA AND SUN CO., LTD





時代の流れと灯明祭り (ワチュツ-ダディンジュ)

(一社) 日本ミャンマー友好協会
ミャンマー支部長 平尾 友里 (ヌウェニゾー)

時代の流れに生き、次の時代を担う今日の若者が、「ダディンジュ（雨安居明け）」の満月の日について話す時、私は「アビダンマ（対法）の日」の意味を考えます。彼らは、それがどのようないわれ、満月の日は仏教の僧侶にとっては「大力の日」であることについてはほとんど興味を持ちません。しかし、「ダディンジュ、灯明祭だ!」、確かにその声を聞くと、ミャンマーの若者の心は躍動し、かがやく光で幸せな雰囲気包まれます。

四旬節（斎戒の日）は、故郷の町や村の懐かしさから、遠く離れた人々にとっては少なくとも帰省の日ではなかったでしょうか？ ミャンマーにいて、ミャンマーの懐かしい風習の雰囲気慣れている人にとって、ダディンジュ月は懐かしくて楽しい月です。多くの人はその時期の夜をワクワクし



て過ごしてきたことがあると思います。

若い頃、「ワチュツ（安居明け）」という言葉聞いたとき、最初に目にしたのは、満月に合わせた、光で明るい綺麗な色とりどりの提灯、オイルランプです。子供の頃に過ごした祭りは有名なライブの宣伝で、見世物のチケットや、爆竹の騒音はありませんでした。昔は、事業主たちのさまざまな宣伝広告や商業主義ではありませんでした。

自由な休日になるとすぐに、家族でそろって建てた家、どこかの家の玄関でも窓や戸に小さな提灯を吊るし、オイルランプを灯し、天界の神へのおとし火、お香を添えて祝います。村では、寺院の人たちと唱文を暗唱し、お釈迦さまに捧げます。その後、彼らは家から家へと行き、両親や祖父母をあがめ敬います。親からお小遣いをもらうと、子どもは自然と楽しみ喜ぶものです。子どもの時、夜には綺麗に

着飾り、小さなオイルランプに油を塗って並べ、村を回りました。その時は、青年は好きな子に愛を告げるチャンスであるでしょう。同じように、村には年のいった独身者達は今年こそ縁が結ばれますように頑張ろうとします。幼い頃、満月の夜、ろうそくに火を灯してお供え物をしていると、祖父母が言うように、精霊が、妖精たちが舞い降りるか空を見上げて待ちましたのは、本当に思い出深いものでした。

お釈迦さまはターワディンタ天界（忉利天、三十三天）に行き、ワゾー(7月)の満月から「ダディンジュ(10月)」の満月まで三ヶ月間、天界に転生した生母マーヤに「純一無垢の教え」を説いたと言われています。お釈迦さまは、生みの親への恩返しとして天にのぼり説教したのです。雨安居の間忉利天で説法したお釈迦さまは、満月の夜に人間界に帰ります。



切利天から人間界に降り立つ前に、お釈迦さまは「出発する」と神々の王帝釈天に告げられました。そこで帝釈天は黄金、紅玉、銀の三つ筋の階段を造りました。お釈迦さまは全身から六色の光線を放ちながら、真中の紅玉の階段から人間界に降りられました。帝釈天は右側の黄金の階段、梵天は左側の銀の階段からお釈迦さまに続きました。宇宙全体は天空の空間として視界が開かれ、すべての神々、天人たち、地上の人々、無限地獄にいる者たちまで、互いをはっきりと見ることができました。人々はお香を焚き、お釈迦さまを歓迎しました。このような光りをお釈迦さまに捧げる伝統を受け継ぎ、今日まで、祭りになる度にろうそく奉納の儀式がミャンマー各地で行われています。

私が幼い頃、両親は光の祭典がどのようにして生まれたのかを教えてくださいました。幼い時から今日まで、この季節になると祝祭日にはいつも、私たちは祖父母、両親、師、お世話になった人に対して手を合わせてあがめます。自分より年上の人たちを尊重する伝統は、仏教文化に由来します。両親や祖父母の前でひざまずき、仏教の教えに反する罪を犯したかどうか話します。若い人は分かり

ませんが、年老いた親と罪過を反省し合うことによって、愚かな行動や考えの足りなさを理解し合います。仏教徒のミャンマー人が罪を洗い流すために許しを請う伝統が、どれほど美しいかが想像できます。この伝統は、どこの国にもない誇り高い文化とさえ言えます。

お釈迦さまによって説かれた祝福の説法は、捧げられるに値する人に捧げるべきであり、尊敬に値する人を尊重すべきであると言われています。また、お釈迦さまは「話しやすい人であること」はしあわせだと説かれました。また、僧伽（サンガ）にお布施をすることは、教法に則った功德のある行為です。

「文化」という言葉からは「繊細で優雅な振る舞い」を感じます。「守られてきた伝統と規範」、「慣習」として、それは伝えられて来ました。古来、このアビダンマの満月の日にろうそくを捧げるのは仏教の文化です。代々受け継がれてきたこの文化は、美しいミャンマーの伝統が続いている限り、文明社会に流れ続け、楽しいお祭りとともに永く続くでしょう。

雨季明けが近づくと、ヤンゴンとマンダレーを高速道路で祭日に帰国する人たち、行楽旅行に行こうとする人たちは、より活動的になります。また、浮き浮きとして結ばれようと励むおふたりの結婚式は間近に迫ります。どの神々が、功德が大きいかを確認してお参りの準備をしている人々もいます。6月に学校が始まって、スクール教室、授業に精を出している若い学生にとって、ダディンジュの祭日は楽しい時です。いつまでたっても楽しい気持ちを抱きたい話です。

この時期を愛するすべての人が、祭りの間、ミャンマーの風習の美しい雰囲気を楽しみ日々を過ごせますように、祈ります。





「ミャンマー人材が活躍する」企業レポート

社会に貢献できる付加価値創造提供企業を目指す

「前出産業株式会社」

当協会理事・関西支部事務局長
岡 晃市



「日本企業を支えるミャンマーの力」

前出博幸氏が代表取締を務める前出産業株式会社（注1）は、滋賀県近江八幡市上田町にある。

同社は高度な電子部品の受託製造事業を中心に金属加工業、医療機器製造事業など、多角的な事業展開を行う個性豊かな企業として異彩を放っている。

同社の企業理念は「会社づくりは人づくり、人が育てば事業が育つ」であり、その夢の実現のためには「人間力」「提案力」「改善力」の三つの力を鍛える事。そして製造業のプロとしてお客様からご満足いただける製品・サービスを提供する事をモットーに従業員一同で日々邁進している。

この従業員の中に、遠く故郷を離れ上田町の前出産業(株)で懸命に頑張っている5名のミャンマー人女性が居る。

この5名のミャンマー人従業員と同社とのご縁の始まりは、今から9年前（2014年）、前出社長が所属する滋賀県中小企業家同友会が主催した「第3回アジア視察研修会」（2014年8月31日～9月7日実施）に参加し、ミャンマーを初めて訪問した事が切掛けである。当時のミャンマーは2011年にテインセイン政権が成立し、それ以前の軍政から民主化へと大きく方向転換し、国政の安定化、外国投資による経済発展などで、国民生活は豊かになり自由を謳歌していた時期であった。

視察団員16名は9月2日にタイの視察を終え、同日ミャンマーに入った。翌3日からヤンゴン市内の国立大学、人材派遣会社、縫製会社などを訪問したが、その中で某日本語学校を訪問した時に、前出社長は「これまで中国、ベトナム、タイ等の日本語学

校をいろいろ視察して来たが、このミャンマー日本語学校の生徒達ほど真面目で、日本人らしい感性を持っている生徒に出合ったことはなく、大変心を打たれた」と、その時の様子を語っておられた。

また、5名のミャンマー人従業員の中のミトウンさんのお姉さんが、滋賀の信楽に住んでおられ、今回の視察団の通訳として同行し、大変お世話



前出産業(株)
代表取締役・前出 博幸氏



になった事もミャンマー人材採用の大きな要因となった。

翌年の2015年、ミャンマー人従業員採用のため、前出社長は会社関係者2名と共に、改めてヤンゴンを訪問。ミミトゥンさん、スーイーモンさん、エンタラマフィー・マウンさん達3名の面接を行い採用を決定した。

前出社長はこの時、「彼女達の新しい力が、これから我が社の発展に大きく貢献してくれるに違いない」と心の中で確信を持った。

その3年後の2018年、3度目の訪緬で新しくジンメマウンさんとヤダナーさんの2名を採用し、ミャンマー人従業員は5名となった。(2022年10月現在)

こうして彼女達5名は、現在あこがれの地日本での生活にも慣れ、近江八幡市上田町にある同社「上田事業所」の組立課に所属して、高度な電子部品の組立業務を日々立派にこなしている。

前出社長は「ミャンマー人従業員に対しては直雇用で、その他の雇用条件も日本人と同等とし、彼女達の真面目さと努力を高く評価しており、今後は更に一段と高いレベルの仕事

に従事させたい。また、ミャンマー人材の発掘については地元の情報に詳しいミミトゥンさんを中心に進めている」と熱く語っておられ、ミャンマー人従業員への大きな信頼と期待が感じられた。

また、一方ミミトゥンさん達5名のメンバーも「前出社長は私達に対し、とても理解が深く、大変居心地の良い職場です。日本人の従業員の皆さんからも良くしていただき、この会社でずっと働きたいです。もっと日本語を勉強し、日本の文化や習慣も身に付けたい」と目を輝かせて話していたのが印象的であった。

同社としては、2022年11月に新しいミャンマー人材3名の採用を決定しており、今後、彼女達は前出産業(株)の成長に欠かせない存在になりつつあるのを感じさせられた。前出社長の経営理念と相互信頼、また、ミャンマー人従業員の貢献により、同社の益々の発展と日緬の交流が促進されることを願わずにはいられない。

(注1)

- ・社名=前出産業株式会社
- ・本社・上田事業所=滋賀県近江

八幡市上田町1288-18

- ・代表取締役=前出 博幸(千葉大学工学部卒業→三田工業→京セラ)
- ・設立=1974年(昭和49年)
- ・資本金=2,000万円
- ・年間売上=6.1億円
- ・従業員数=139名(内、正社員:29名、ミャンマー人含むパート:110名)
- ・その他事業所=竜王事業所、野洲事務所
- ・事業内容=電子部品受託製造事業、金属加工事業、医療機器製造事業、業務請負事業、食品リサイクル事業、蓄熱式薪ストーブ事業、観光事業
- ・沿革

昭和38年、現会長・前出幸久氏が豊床の製造・販売として創業。

昭和50年、京セラと取引開始。豊床の製造・販売から撤退。

平成9年、前出 博幸氏2代目社長に就任。前出 幸久氏は会長に就任。その後、各種事業を展開し、家業を発展に導く。

平成22年、本社を現在の上田町に移転し、本社・上田事業所として現在に至る。



前出産業(株)上田事業所組立課で勤務する

左からスー・イーモンさん、ジン・メ・マウンさん、エンタラマフィー・マウンさん、ヤダ・ナーさん、ミ・ミ・トゥンさん



前出産業(株)上田事業所組立課

大手企業から受注した精密電子部品の組立に真剣に取り組む5名のミャンマー従業員。清潔で明るい職場からは緊張感の中にも熱いパワーが伝わってくる。



今号から日本で活躍する在日ミャンマー人の皆さんにスポットを当て、その活動をご紹介いただく新企画がスタートします。第1回目は滋賀県近江八幡市在住でミャンマー少数民族チン族に伝わる「バンブーダンス」のグループを主宰し、ミャンマーの貧しい人々を支援しているCNBDG-Japan (Chin National Bamboo Dance Group-Japan) 代表のミミトゥン (Mi Mi Htun) さんにご登場いただきました。

<アクションミャンマー・レポート> NO.1

皆さんのご協力をお願いいたします。

チン族民族舞踊「バンブーダンス」で、支援を続けます。

レポーター：CNBDGJ代表・ミミトゥン（滋賀県近江八幡市在住）



CNBDGJの踊り手さん達。

左からヤダナーさん、スーイーモンさん、代表のミミトゥンさん、エンタラマフィーマウンさん。

私はチン族のミミトゥン (Mi Mi Htun) と申します。チン州はミャンマーの西部にある州です。人口は2014年の国の調査で約478,801人で、州都はハカです。面積は36,020平方キロメートルで滋賀県の8.96倍に当たります。同州は山岳地帯で交通の便は悪く、国内で最も開発が遅れている地域の一つです。

州には9つの郡があり、53の異なる部族と言語があります。

私の両親はチン州のハカ郡ナムサン町の出身で、その後、シャン州に転居し、そこで私は生まれました。

2015年(平成27年)に、現在滋賀県の信楽に住んでいる姉の紹介で、近江八幡市で電子部品の製造販売

などを行っている前出産業株式会社の前出社長さんと2016年(平成28年)にご縁ができて、この会社には他のミャンマー人2名と一緒に入社致しました。

その後、2名が採用され、現在、この会社には5名のミャンマー人が働いています。(2022年10月現在)

私が主宰するCNBDGJは、2019年に前出産業のミャンマー人社員の中で、バンブーダンスに興味を持つ4名が集まって立ち上げました。私達のこのグループは、ミャンマーの貧しい人々や避難民の人々の生活が少しでも楽になるよう支援する事を目的に活動し、そこで頂いた寄付や収益金の全てを、これらの人々にお贈りしています。バンブーダンスは8本の竹の棒

を交差させた枠の中で3拍子の音楽に合わせて踊り手が踊ります。踊り手は女性だけの場合もありますが、男女で一緒に踊る場合もあります。竹を合わすときに鳴るカチカチという音と音楽がマッチして会場を大いに盛り上げます。

現在、グループのメンバーは女性5人、男性8人で、休みの日を利用して寮の近くの公民館をお借りして練習に励んでいます。

活動としては2022年5月22日(日)、在日ミャンマー人の団体が主催して、名古屋市中区の久屋大通公園で「Nway Oo Festival」が開かれ、私達CNBDJもボランティアで参加しましたが、日本人の参加は無料でしたが、日本人の参加は無料として、沢山の日本人の皆さんに来ていただきました。日本人の皆さんはバンブーダンスを観た事がなく、沢山の方々から大きな拍手をいただき、私達も嬉しく思って今後も続けようと決心しました。

そして、このイベントで得た全ての寄付や収益金は、この団体から困っているミャンマーの人々へ贈られました。

それから、同じ年の6月19日(日)、アウンサンスーチーさんが77歳の誕生日を迎えられたのを記念し、在日ミャン

マー人の団体が主催する「ミャンマー支援のイベント」が、川崎市中原区の中原平和公園で開かれました。

このイベントにも私達CNBDGJが参加し、多くの方々に喜んでいただきました。

今後共、私達グループは、このような活動を通じ、沢山の皆さん方に観て頂き、ミャンマーを深くご理解頂ければ嬉しく思います。

これからも、CNBDGJは元気に活動を続けてまいりますので、どうかご支援をよろしくお願い致します。



大いに盛り上がるバンブーダンス。竹の棒の持ち手と踊り手の息の合った動きが絶妙です。



「さわやかな風」

<ニューフェース紹介> 株式会社ウイング

当協会理事・関西支部事務局長
岡 晃市

■MIN KYAW THU (ミン・チョー・トゥ) さん 35歳/既婚

2022年10月26日、当協会の法人会員で大阪市北区にある人材派遣会社・㈱ウイングに新しいミャンマー人社員「ミン・チョー・トゥ」さんが入社しました。同社初のミャンマー人社員の採用で、2019年に知人の日本人の紹介で来日し、㈱ウイングの採用面接を受ける。採用は内定しましたが、その後のミャンマーでのコロナ禍やクーデター等の諸事情で足止め状態となり、3年越しの来日となりました。

彼の生まれはミャンマー最北地のカチン州・州都ミッターナー（大きな川のほとりの意）で、その後、実家の

ヤンゴンへの移住によりこの地で育つ。2019年にダゴン大学ミャンマー語学科を卒業後は、同市の造園関係会社や日系の縫製会社で勤務しました。その後は既述の通り、単身にて憧れの地・日本で彼のキャリアを発揮する事になりました。

家族は奥さんと子供二人の4人家族で、彼の日本での生活が安定し次第、家族を呼び寄せ、子供にも日本の教育を受けさせたいそうです。

㈱ウイングの星山社長は、「彼は日本語も堪能で、業務としてはミャンマー人材の本国からの受け入れと、それらに関わる手続き並びに日本語や日

本の生活全般に関する教育、日本企業への人材紹介等を専任で担当させたい」と大きな期待を持って語っておられました。



日緬の交流と人材派遣業務を期待される
ミン・チョー・トゥさん

会費納入のお願い

当協会も新体制のもと、順調に運営を始めています。会費未納の方は下記新規口座に納入をお願いいたします。

<年会費> 個人 10,000円
学生 3,000円
法人 50,000円

<振込先>
三菱UFJ銀行 新宿新都心支店 普通0376654 日本ミャンマー友好協会 都築治
会員増強をいたしております。お知り合いにミャンマーに興味のある方ございましたらご勧誘ください。



<特別寄稿>

お釈迦さまの物語 (第七講)

講師: つづきおさむ

13 布教の決意



二人の商人兄弟が去った後、ブッダはウルヴェーラーのネーランジャラー川の岸辺バンヤン樹の根もとに座し、ひとり静かに瞑想にふけていました。そのとき、心のうちに次のような思いが生じました。〔わたしがさとったこの真理は奥深く、とらえ難く、難解であり、思考のはんいを超え、細かくふくざつで、真にかしこい者しか理解できない。苦勞してさとったものを、どうしていま説く必要があるか。わたしが教えを説いたとしても、他のひとがだれも理解してくれなければ、疲れはてるだけだ〕。

このように、ブッダは心のなかで感情がからみ合い、なにもしたくない気持ちになっていました。説法しようという気にはなりません。しかし、とつぜん心のうちに梵天(ブラフマンBrahman)の声が聞こえて来ました。

「ああ、この世はほろびる。この世はほろびる。真理をさとったひとの心は教えを説く気がなく、説法しようとしなないのだ。」

つづいて今度は、梵天が目の前にあらわれました。そして上衣を片がわの肩にかけ、右ひざをおって地につけ、ブッダに手をあわせて言いました。

「真理をお説きください。法を説いてください。世間には、生まれつきよごれの少ないひともあります。かれらは教えを聞いていないので、退歩してします。教え

を聞けば、真理をさとるでしょう。」

梵天はこのような言って、さらにまた次のように言いました。

「かつてマガダ国では、けがれある者たちによって考えられたけがれた教えが出現しました。願わくはさとりの門をひらいてください。真理を説いて、うれいでもなやめる子どもをみちびいてください。説法してください。さとりにいたる者たちもあらわれるでしょう。」

梵天の再三の願いにより、ブッダはためらうところから覚めました。そしてこの世界を、仏眼でもって見わたしました。するとまよいが少なく、おこないが清く、教えみちびきやすいひとが、世界にいることを感じました。

ブッダは〔最初にだれに法を説くべきであろうか。だれがこの法をすみやかに理解できるだろうか〕と、思いをめぐらせました。思いうかんだのは、かつて師事したことのあるアーララ・カーラーマでした。〔師はかしこく、知恵があり、けがれないひとである。かれならすみやかに理解できるだろう。さあ、最初にアーララ・カーラーマに法を説こう〕。

しかしかれは、すでに七日前に亡くなっていました。そこで、もう一人の師であったウッダカ・ラーマプッタに法を説こうと思いました。かれもまた、前夜に亡くなっていました。つづいて思いうかんだのは、ブッダが苦行したときに修行をとともにし、仕えてくれた五人の修行者たちでした。〔今、どこにかれらはいるのだろうか。かれらなら、わたしの教えることを理解できるだろう〕。



14 最初の説法

ブッダは、五人の修行者がバーラーナシー(Baranasi)の郊外、鹿野園で修業していると確信しました。バーラーナシーは、古来あらゆる宗教の聖地で、バラモンや行者らが集まって修行している場所だからです。こうして、ブッダはバーラーナシーへむかいました。途中でアージヴィカ(Ajivika)教徒のウパカ(Upaka)に出会いました。アージヴィカ教は非バラモンの有力な

宗派でした。

「君の身のこなしは優雅で、顔色はおだやかで輝いている。だれのもとで修業しましたか。だれが師で、だれの教えを信じていますか。」

このように、ウパカはブッダにたずねました。ブッダは答えました。

「わたしはすべてにうち勝ち、すべてをさとったブッダである。すべてをすて、自らさとりをひらいた。したがって、師となるような者はだれもいない。師と仰ぐべき者も、わたしに等しい者もない。わたしはこの上なき師であり、世間から尊敬されるべきブッダである。」

ウパカは次のように言い、頭をふり、わき道を取って去って行きました。

「おそらく、そのとおりでしょう。」

いよいよブッダは、五人の修行者がいるバーラーナシーの鹿野園にやって来ました。そのとき五人の修行者は、はるかにブッダがやって来るのを見ました。そして、みなで申し合わせをしました。

「ゴータマは修行をすて、ぜいたくな生活におちいった。ゴータマにあいさつしたり、立って出むかえたりしてはならないぞ。衣やはちを受けとってはならない。かれは大きな家のうまれだから、すわるところだけは設けてやろうよ。」

だがブッダが近づくと、かれらはじっとしていることができず、立ってブッダをむかえました。ある者は衣やはちを受けとり、ある者は足を洗う水を用意し、ある者は座席を用意し、足台や足布を持って来ました。けれども、彼らは心のなかではブッダをいまだに軽べつていましたので、ブッダに言いました。

「君、ゴータマ!」

これを聞いて、ブッダはみなに言いました。

「お前たちは、わたしを呼ぶのに『ゴータマ』という名で呼びかけたり、『君』と言ってはならない。わたしは最高のさとりをひらいたブッダである。お前たちに法を説くからよく聞くがよい。教えたとおり実践すれば、最高のさとりを来世を待たずに得ることができよう。」

「君は、難行苦行をすて、ぜいたくになったのに、どうしてさとりを得ることができたのであろうか。」

「お前たち、わたしはぜいたくになったのではない。精進努力をやめたのでもない。わたしは尊敬されるべきブッダである。耳をかたむけよ。お前たちは、わたしがかつて、このように自信をもって説いたのを聞いたことがあるか。」



(筆者は当協会専務理事：都築治)

イラスト：とみざわ えりこ



F&P フクダ・アンド・パートナーズ
ONE MORE TRY! CO-SOURCING REAL PARTNER

KOJIMA **株式会社 小島組**

M3L Myanmar 3L Co., Ltd

中央土木株式会社

ミヨシグループ
MIYOSHI GROUP & CO., LTD.

米粉製粉設備のことなら
西村機械製作所
NISHIMURA MACHINE WORKS CO., LTD.

Sakura Kankou Travels & Tours Co., Ltd.
さくら観光

株式会社 ブヨウ

WING 価値ある未来を応援する企業
株式会社 ウイング

日本の技術と心を世界へ
株式会社 山梶製作所
Yamakaji

世界遺産登録
高野山 藤之坊 成福院
ビルマ方面 戦没英霊供養
摩尼宝塔

・お地藏さんの寺
・壬生狂言
・新選組ゆかりの寺

壬生寺

編集後記

“ヤダナー”
ရတနာ
[yadana]

自己紹介

初めまして。今号から会報誌の編集担当をしております、中田大生と申します。歴史ある会報誌の編集に携わることができまして、とても嬉しい気持ちです。Z世代の一番手として、1995年に大阪で生まれました。現在は東京都に住んでおり、「WEBマーケティング」を職業にしています。

さて、今号は、来日されたミャンマーの方々活躍が特徴的でした。就業先では確実にキャリアアップを実現されている姿から、私も日々努力しなければ、と心改まる気持ちになりました。また、日帰りバスツアーの催行や、ミャンマー郷土料理の調理会、チン族伝統舞踊を通じたチャリティイベントの開催においては、日本

とミャンマーの人々双方に新しい気付きや価値観が生まれたことでしょう。

これらの交流活動をよりドライブさせるためにも、日本人会員だけでなく、ミャンマー人会員数の増加に向けたプロモーションを打っていくことが必要不可欠です。現在、ミャンマー人会員強化施策の一貫として、HPの改修を進めています。簡易にWEBから申込できるツールの導入や、ミャンマー語にも対応した申込フォームの実装に取り組んでいます。

引き続きHPの改修を進めることで日緬交流の量的拡大に取り組みつつ、会報誌では日緬交流の実際をみなさまにお届けできればと願っています。

これから、よろしくお願いいたします!

【関西支部】〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1丁目1-3大阪駅前第3ビル20F TEL.06-6342-1788

【三重支部】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見2318-3中央土木(株)本社内 TEL.0598-32-8800

【ミャンマー支部】No.37(1F), 164th Street, Tamwe Township, Yangon, Myanmar TEL.(+95) 9-505-1823